

いたばし
ビオトープ
ネットワーク
学校訪問シリーズ5

白子川から学ぶ～三園小学校 「子どもが意識していないことを 意識させるおもしろさがあるんです。」

ここに一冊の本がある。「白子川を知っていますか。」一水辺再生に向けて（白子川汚濁対策協議会・刊）である。その本の解説によると、白子川は、練馬区の大泉井の頭公園の湧水から始まり、和光市・板橋区の境の北西を通って新河岸川（昔は荒川に）に注いでいる総延長10kmの1級河川である。

武蔵野台地のはずれにあたる板橋区成増・和光市の台地から急に平地に落ちるあたりにも湧水が湧き出でて、この川の成り立ちが湧水によるものとわかつただけで、なにか、この川のことをもっと知りたくなってくる。川越街道の方の成増から和光市へ登るあたりの魚屋が、今も湧き水を使って魚を洗っているそうである。おまけに、現在も川沿いの湧水は一部健在なのだ！

三園小学校は裏手が白子川に面し、新河岸川に注ぐ合流地点にほど近いところにある。そのため、総合的な学習の時間の計画が立てられた当初から、白子川は6年生の教材となっていた。

昨年、5年生が白子川流域の自然について調べ学習に取り組むことになった。

夏休みのある日、前5年担任の清水諭先生に取材することができた。

Q 白子川を見て、子どもたちはどんなことに気づいたのでしょうか。

A 魚がいっぱいいる川、鮎が遡上してくる川、そして汚い川という印象でした。（合流地点は、海拔が低く、荒川から、逆流してくることがあり流れが溜まりやすい流域）

Q 指導時間はどの位ですか。

A 20時間扱いました。

Q 先生の願いはどんなものでしたか。

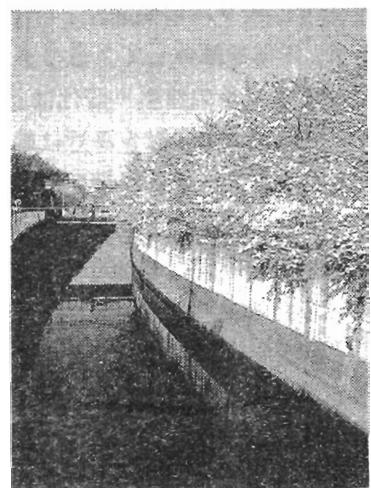
A 身近な自然にふれさせ、実際に調べて、子どもたちの活動に発展するような学習を願っていました。

Q 子どもたちはどんなことを調べたいと思ったのでしょうか。

A 白子川の歴史と変化・白子川の生きものと生きものマップ・第一公園の樹木と未来予想・緑の工夫などです。子どもたちは湧水が流れているのに、なぜ川が汚いのかと不思議に思っていました。

Q 調べ活動・見学などはどういうように行ったのですか。また、ねらいは？

A 安全のため保護者に同行してもらい、まず湧水を見にいきました。地図にある湧水のうち、1箇所は



ビオトープのある三園小の裏庭
に沿って流れる白子川



清水諭先生

なくなり、地福寺では今も流れています。（お清めの手洗い場）

ねらいは、川の様子を見ること一汚いところ、きれいなところ、ものが生えているところ、マンションが建てられ水路が変化してしまったことなどに気づきました。そして、開発と自然保護について考えるきっかけになりました。

Q 「環境調査隊発表会」はだれに向かって発表したのですか。

A 3年生4年生です。下級生たちにわかりやすいように、すくろくで木の名前を覚えられるようにしたりしました。川が汚くなったのは、人の行いの結果であり、モラルの問題だと子どもたちが理解できました。学年を解体して16のグループが発表しました。

Q 子どもたちの成長・変化はどのようにでしたか。

A ・三園地域の自然を感じられたこと
・かなりの自信をつけて下学年に伝えられたこと
・今までやったことがないことをやったこと、水質検査や透視度計を借りてきて（知水資料館アモアより）本格的に調べたこと
・自由な調べ学習で、モチベーションを高められたこと
・これまで、白子川の学習はやったものの記録を残してこなかったが、今回は下級生に伝えることができたこと。
・5年生で、学校のビオトープ図鑑を作ることも出来た。
・先生自身が身近な題材があるとやる気になること
・子どもが意識しないところを意識付けさせるおもしろさを感じたこと

Q これから環境教育への願いをお聞かせください。

A ①ビオトープを利用していくことです。

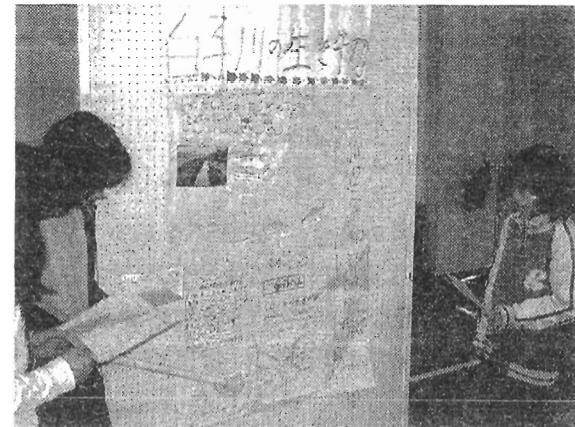
小さな自然がある。生きものがたくさんいる。自然が凝縮されているところ。学校の裏手にあり、なかなか子どもたちが行かない場所にある。行くには約束がある。下学年の子に特にふれあいをさせたい。

行ってもよい場所にしたい。休み時間、学年団と共に足が向くように。授業で使ってもらいたい。

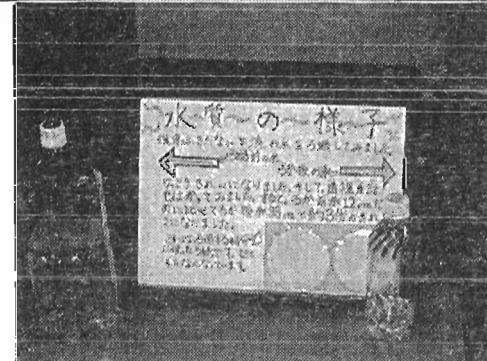
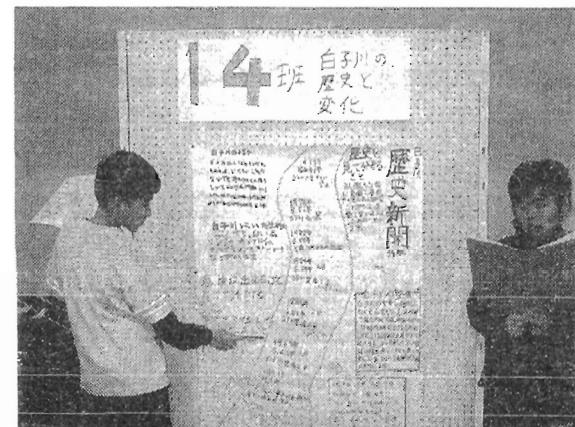
②池と緑の委員会の活動をさらに発展させたいです。

18年より、委員会が花壇と百葉箱の管理、ビオトープの生きものの管理、観察をしています。また、専門家と一緒に、シートの修繕をおこないました。

③白子川の学習を広げていきたいです。子どもたちの自由な発想を生かすことが出来る学習です。この学習を下学年につっかり申し送りし、学びを繋げていくようにしたい。



調べたことを、下級生たちに伝えるために一生懸命、工夫をこらしたパネルの説明。

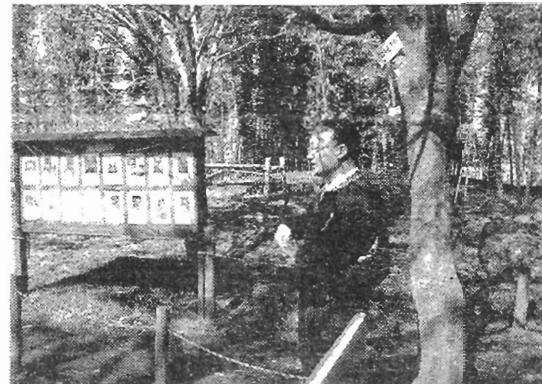


水質調査も本格的に

清水先生の貴重なお話を聴いた数日後、S.O.Eのメンバーは早速、地福寺に飛んで湊水に手をぬらした。澄んだ清らかな水だった。川の水質は、協議会を始め、多くの人々の努力により、少しづつ魚がすめる川に変わってきているところだと知った。

子どもたちは、白子川からの学びを引き継いで、この湊水を宝に、白子川に清き流れを戻すために、少しづつ地域の自然に働きかけていくことだろう。

相良正博校長先生が最後におっしゃった言葉「三園小のビオトープには、ザリガニが一匹もいないのです!」(全校で生態系を守っている!) 子どもたちと先生方、職員、地域の皆さんとの自然への願いがとくとくと伝わってくるような言葉だった。



相良正博校長先生には、校舎裏手に広がるビオトープも案内していただきました。

板橋エコライフウイーク 2006 学校エコツアーリポート - 弥生小学校編

初めての学校エコツアー開催！ 7月21日（金）

板橋区立弥生小学校。温暖化防止と子どもの健康を目的に東京都が単年の予算で都内23校に芝生化の予算を付けました。板橋区で初めての校庭全面芝生化は関心がかなり高いです。

あいにくのしっかりとした梅雨の正しい雨脚の朝、予定の弥生小学校に9時に傘をさして、参加者が集まってきた。偉いナーと感心している内、雨のため、プールも中止で池田校長先生があいさつに見えました。約30名のメンバーで、校庭の縁豊かな芝生の様子を見学。よく管理されていて、今のところ順調に育っています。縁のカーテンも取り組んでいました。

芝生を管理するのは、グリーンサポート隊の、根本さんたち。学校に協力して月に一度、朝7時から1時間ほど、芝刈りと草取りに来ているそうです。無理にやるのでなく気軽にやることにしているという話でした。東京都の芝生化の条件は、芝生の管理をしっかりと出来る地域との連携組織を作ることだそうで、弥生小でも町会、オヤジの会（主に父親）、PTA、校庭使用団体などで協働して作っているそうです。

弥生小はこのほかに、水まきのため、校庭に、スプリンクラーが設置されており、雨の中でしたが、スプリンクラーによる散水の演習を見せてもらいました。いや、見事な散水ぶり。これなら、助かる。スピードガンのような置いておいてくるくる回って散水するのと値段的には余り変わらない（前弥生小校長西村陽子氏の弁）そうです。S.O.Eが聞いたところでは、1,500万円が芝生植え付け、散水スプリンクラーが確か800万円くらいとか。どこの学校も、冬場のほこりがひどく、スプリンクラーがほしいんだよね。明るい図工室いっぱいに座った参加者に丁寧な説明がおこなわれ、森田茂板橋区資源環境部長のあいさつもあり、盛り上がった見学となりました。どこの学校も、グリーンはほしいけれど、運動が制限されるあたりがネック。少ない人数で体育館が使い回せた弥生小ならではの芝生化第1号校でした。ちなみに休み時間のけがが減ったこと、校庭に出ない子どもが外に出るような動きが見られるとのことでした。今後の校庭管理と、子どもの健康向上・運動量に注目が集まるでしょう。がんばってください。

学校エコツアーリポートでは、板橋第七小学校、蓮根第二小学校、高島第三中学校も見学しました。（次号掲載予定）

沖縄エコツアーアー 9月7日～10日

16名参加で、海辺のゴミひろい・サンゴの観察ニリア設置作業と観察・カヌー、シニーノーケリング体験・沖縄料理づくり・地元の方々との交流・沖縄の風習など胸をときどきさせながら、五感でたくさん感じてきました。来年も行きたいという声が圧倒的に上がっています。 無事終了しました。報告は次号から。お楽しみに。

イベント～秋のお誘い

荒川クリーンエイド 2006（秋のクリーンエイド）

10月22日（日）10時～12時 場所 荒川河川敷 自然生態園前土手集合

みんなでわいわいゴミひろいして、後は、手作りの炊き出し（板橋野鳥クラブ）に参加。野鳥も観察します。昨年からSOEも共催で、楽しく参加しています。



日本女子大学人間社会学部 日女祭（ひめの祭）学園祭のテーマ「SPARK」

10月21日（土）22日（日）10時～17時

交通一小田急線各駅停車読売ランド前下車 15分、

向丘遊園前下車 日本女子大学スクールバスにて15分

いつもSOEの観察会や沖縄エコツアーアーにたくさん参加している日本女子大学人間社会学部の学生たちが、文化祭の展示に取り組んでいます。

学生による西生田地域（大学構内のとびきり豊かな自然）の自然観察展示（予定）。

有志による沖縄エコツアーアーの報告（予定）などもありそうです。SOEもかけつけます。

ナチュラリスト藤本和典さんといっしょに楽しむ自然観察会

11月18日（土）10時～13時（予定）

藤本和典さんと共に、高島平の街から、赤塚公園まで身近な自然にふれながら、わかりやすく楽しい解説をうかがいます。何気ない生き物が・植物がとても大切な目に見えてくる自然体感散策です。赤塚公園でネイチャーゲームもするよ。親子で参加してね。軽食飲み物 持参。次号で詳しくお知らせします。

雑木林探検

12月上旬予定

川越の雑木林でみんなで落ち葉はきをして、雑木林を元気にさせます。そこで 焼き芋パーティなど。野菜もいただいて帰ります。親子で参加してね。お楽しみに。

イベントに関するお申し込み、お問い合わせは

電話 03-3960-6052 または メール info@npo-soe.jp センスオブアースまで

発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6053
e-mail: info@npo-soe.jp url: www.npo-soe.jp